

## 西宮市医師会看護専門学校 令和3年度 自己評価および学校関係者評価結果

### ○自己評価および学校関係者評価の経緯と概要

2003年に看護師等養成所の教育活動に関する自己評価指針が示され、本校においても教育の質向上に向け、2004年度より自己点検・自己評価委員会を立ち上げ、厚生労働省の自己評価指針<sup>1)</sup>をもとに自己点検・自己評価への取り組みをはじめました。

指針をもとに約10年自己評価活動に取り組んできた結果、授業運営にかかわる教育課程経営や教授学習評価過程に関する評価は、ほぼすべての項目が高い評価となっています。しかし、国際交流、研究に関して評価点は低いままで経過していました。そこで、本校の厚生労働省の自己評価指針をそのまま使用することが本校の教育理念に合致しているのかを含め、本校の自己点検・自己評価のありかたについて改めて見直し、自己点検・自己評価委員会において本校の教育理念を基本に、厚生労働省の自己評価指針<sup>1)</sup>、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」<sup>2)</sup>も参考にしながら、本校の自己点検・自己評価指針を作成しました。

本校は西宮市医師会定款に示す医療技術者の養成に関する事業を受けて運営されており、地域に密着した看護サービスが提供できる看護の実践者を育成することにあると教育理念にあげおり、教員の研究活動より学生の教育活動に重点がおかれるのは当然であると考え、これまで、一つの 카테고리として取り扱っていたカテゴリⅨ「研究」については、教育活動の充実に関する下位項目ととらえ、評価カテゴリを整理しました。その結果、2015年度より評価指針を6カテゴリに整理し、カテゴリごとに下位項目、評価内容を作成し、評価しています。令和元年度には自己点検・自己評価委員会を自己評価委員会と改称し、あらたに学校関係者評価委員会も立ち上げ評価を行いましたので、2019年度自己評価結果及び学校関係者評価について報告します。

#### 1) 厚生労働省

「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/07/s0725-5.html> 2020年3月アクセス可能

#### 2) 文部科学省

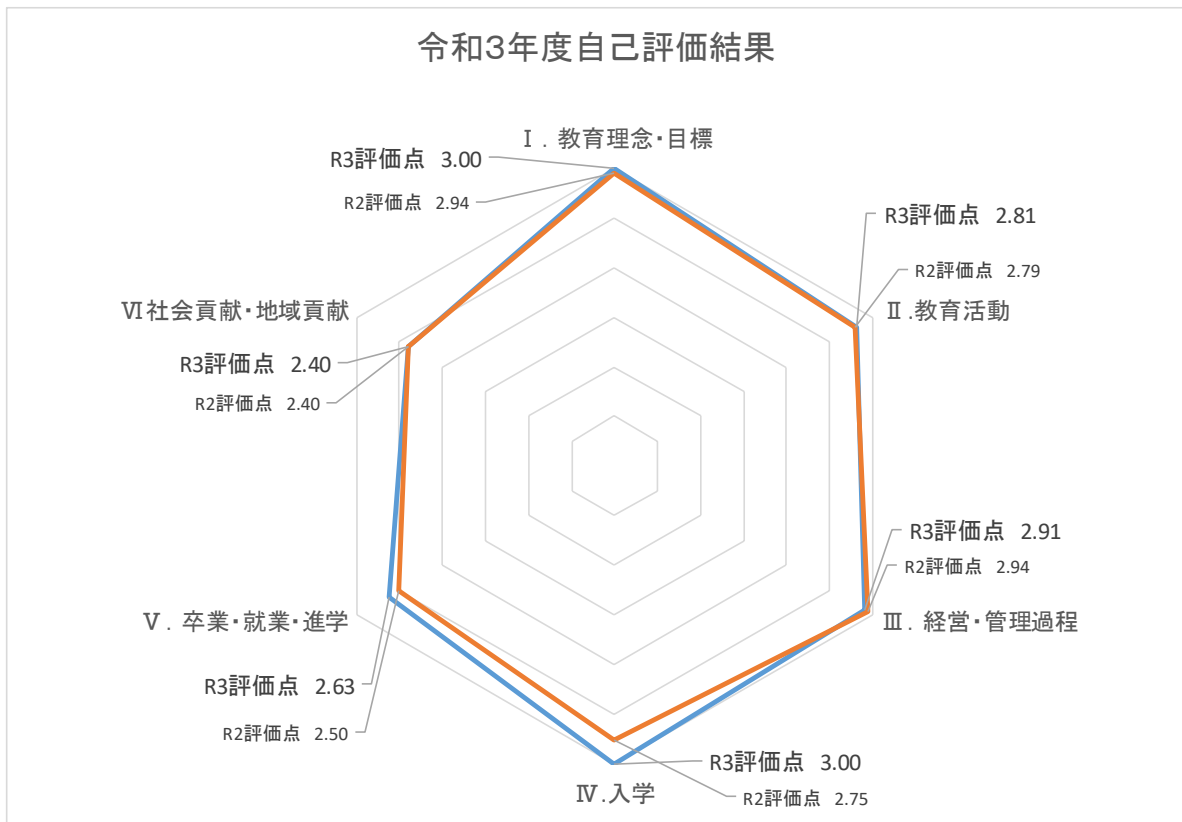
「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく学校評価マニュアル

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shougai/senshuu/1332632.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1332632.htm) 2020年3月アクセス可能

## 令和3年度 自己評価 カテゴリーごとの自己評価概要

<p>I 教育理念・教育目標</p>	<p>医師会立として地域保健医療の向上を図るために看護サービスの実践者を育成するとうたっており、本校の特徴を示している。卒業時アンケートにより教育目標は概ね達成していることが確認できた。また、令和4年度からのカリキュラム変更に向け、カリキュラム評価をし、あらたに教育理念、目標を見直し、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを策定した。</p>
<p>II 教育活動</p>	<p>教育課程編成の考え方と具体的な構成に基づきカリキュラム運営を行っている。学生へは学生便覧と履修の手引きを配布し入学時及び各学年の前・後期ガイダンスで説明している。令和4年度からの新カリキュラム運用のため令和3年度は、学則等変更承認申請を行った。申請の準備として教員間で教育理念・目的・目標の見直しや教育内容との整合性を再確認できた。その結果、現行カリキュラムにおける科目と単元構成の考え方や教育活動への改善点が見出されたため、点数が低くなった項目があると考え。しかし、新カリキュラムにおける教育内容の抽出は改善点をふまえて行えた。令和2年度に引き続き、コロナ禍であったため感染予防策を重視した臨地実習であった。若者の感染やオミクロン株の特徴から、病院で昼食が摂れず、午前中のみの実習や学校で昼食を摂った後、再度病院へ行くなどの対応も行った。可能な範囲で臨地実習を受け入れて頂いたが、感染者数が増加すると病棟が多忙となり学生の指導にかけられる時間が取れない状況になり、教員も調整が難しい状況が発生した。実習指導者会議も対面で行うことはほぼなく zoom 会議やメール・電話での調整となり意思疎通が思うようにいかない状況も発生していたと考える。教育目標の各年次達成については各学年終了時と卒業時にアンケート調査を実施し、教員会議で共有し改善点を協議している。科目目標の達成については授業アンケート及び筆記試験、レポート、ルーブリック評価を活用し多面的に評価をしている。実習科目の評価もルーブリック評価を使用し、臨地の実習指導者と意見交換しながら実習評価をしており、公平性の担保に努めている。</p>
<p>III 経営・管理過程</p>	<p>意思決定システムとして運営会議（医師会）・運営会議（学校）・教員会議が明示されており、日常のミーティングと諸会議で全職員の意思決定ができています。日本学生支援機構、市内医療機関の奨学金について説明会を実施して希望者の便宜を図っている。新たな支援制度ができればその都度対応しており、現在専門実践教育訓練の指定校となっている。昨年度から開始の高等教育無償化による授業料等減免補助事業による対象者は、34名。減免補助のおかげもあり、授業料等は全員期限内に納められた。「学生等の学びを継続するための緊急給付金」の募集があり、給付奨学生全員（減免対象者）と希望者を推薦。推薦者全員が給付金を受給できた。学校設備の充実を医師会事業計画にあげ、計画的に実施している。昨年度に続き校舎の改修工事の下調べを実施、令和4年度改修工事实施予定。コロナにより臨地実習に行けない部分を補うため「教育用カルテ」を購入、校内実習に備えた。次年度から導入の電子テキストに備え、iPad 6台の購入、コピー機、シュレッダーの更新と本年度予算計上どおりに整備できた。</p>

IV 入学	入学選考に関する規程を定め、入学者選抜を公正に実施している。アドミッションポリシーについて次年度の新カリキュラムにむけ、新たに作成し学校案内で提示している。入学試験委員会において過去の入学状況を参照し、選抜方法について検討している。例年どおり校内でのオープンキャンパス、学校説明会の実施及び高等学校等で開催の進学相談会に参加するも、昨年度より受験者が3割強減少。今後の対策を検討する必要が出てきた。
V 卒業・就業・進学	進路指導を実施し、概ね適切な進路選択ができている。卒業時に本校目標に沿ったアンケートを行い概ね到達目標は達成されている。卒業時の就職状況調査で就職、進学について把握しており、次年度の就職指導に役立てている。令和元年度就職病院に聞き取り調査を実施し、平成28年度には全卒業生へアンケート調査を行った。令和2年以後、新型コロナウイルス感染症による影響があり、就職説明会等での数か所の医療施設の聞き取りのみになっている。
VI 社会貢献・地域貢献	令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症のため学校祭は中止、実習施設や近隣施設からのボランティア要請などの地域交流もできない状況となった。年間高校進学ガイダンスに50回前後参加し、進路相談を実施していたが、昨年度はコロナのため大幅に回数は減少したが、今年度、若干出席回数は増加した。本校での学校説明会、オープンキャンパスについても人数制限をして、感染予防に留意して行ったが、前年度の半数以下の受け入れとなった。



カテゴリーごとの下位評価項目を、当てはまる：3， やや当てはまる：2， 当てはまらない：1として評価した平均を示している。

## 学校関係者評価

西宮市医師会看護専門学校は、令和4年5月12日に「2021（令和3）年度」の自己評価結果報告書」をもとに、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

令和4年5月23日  
西宮市医師会看護専門学校

### 学校関係者評価委員

- 1) 臨地実習施設関係者 依藤 泰子
- 2) 元教職員 井上 晃一
- 3) 卒業生 前 佳美
- 4) 講師 高原 英喜

総合的に新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの学校経営となっているが、今後も with コロナの状況は継続するため、そのような状況下であることをふまえたうえでの運営をする必要があると考える。

### 評価カテゴリーごとの学校関係者評価・意見

I 教育理念・教育目標	・コロナ禍であるが、教育目標の達成に向けて実践できている。今後も社会状況に応じながら教育実践、目標達成のために限りなく努力して欲しい。
II 教育活動	・新カリキュラム編成のために現行カリキュラムを評価し課題解決にむけた取り組みはできている。コロナ禍であるが感染状況に応じて講義や臨地実習の方法を工夫しながら運用していると評価する。 ・教員の研究活動については、教育実践力の向上のための時間が確保できるように更なる努力を続けて欲しい。 ・コロナ禍でもありオーバーワークになっている点に対して、要因分析するとともに改善策を講じている努力は評価できる。一步進んで、他職種の外部講師も活用しながら教育活動を行うことも検討してはどうか。 ・コロナ禍での臨地実習時間の減少は感染予防のためにやむを得ない状況であり、実習施設と調整しながら可能な範囲で臨地実習時間を確保していると評価する。体験は貴重であるため、今後も実習施設の協力を得ながら臨地実習ができるように取り組んで欲しい。
III 経営・管理過程	・学校経営・運営は適切にできている。受験者数が減少しているため、学生の負担増にならないように長期的に考えて経営基盤を安定させる努力をして欲しい。 ・学生の相談は、学生カウンセラーの活用を増やすなどし、専任教員の負担を減らすように考えて欲しい。 ・防災・危機管理に関しては、コロナ禍であることを前提に計画して欲しい。
IV 入学	・入学試験委員会メンバーを中心に学生確保のための活動は計画通りにできているが、受験者数の減少要因を分析し、課題解決に取り組んで欲しい。また、これからの看護専門学校をどのようにPRしていくかを考えて欲しい。
V 卒業・就業・進学	・就業や進学について、進路指導により適切な進路選択ができている。
VI 社会貢献・地域貢献	・地域社会に貢献する取り組みは、コロナ禍における感染予防対策を取りながら社会状況に応じて可能な範囲で実践できている。